
新 刊 紹 介

○ 徳田御稔著 **進化・系統分類学** (I, II, 全二冊) 共立全書

著者は長らく京都大学で進化学と系統分類学の講義を担当してこられた。これはその内容を公表されたものである。著者の企図は、Iのまえがきに簡潔にのべられているが、種の分歧の機構を論ずる種分化論と下等で簡単な体制をもつ生物から高等で複雑な体制をもつ生物への進化を結びつけて論じなおすという今日的課題にとりくむために、ラマルク・ダーウィンの進化学説を正確に知り、次にその後の進化学的研究の成果を整理するという作業をやらなければならない——その作業をこの著作で行うということにある。

そして、著者が“改稿進化論”や“進化学入門”で確立してこられた見地がさらに一段とすめられ多数の文献としっかりした論理によって読者に承認を迫るのである。

著者の論旨に反対する立場の論者もあるであろうが、このようなしっかりした講義を受けることのできた学生諸君をうらやましがらない人はいないであろう。(古池 博)

○ 村井三郎著 **岩手県植物文献目録** B 5版, 92頁, 岩手植物の会発行, ¥ 500円。

著者の言葉を借用すると、岩手県の植物各分野を研究するに当り、過去の諸先輩が如何なる業績を残しているかをまづ調べてから、自分の調査研究に着手するのが自然科学者のとるべき常識であるから、その指針として、この書を編集されたと言って居られる。

内容を見ると、第1項は著者別文献目録で、岩手県関係の植物文献を822篇あげて居られる。所々に本誌の名もみられ、本県の植物研究にも若干の貢献をし得たことをよろこばしく思っている。

以下、第2項 年代別著者目録、第3項 研究項目別著者目録、第4項 特定研究者の略歴、第5項 著者の思い出となっている。入手御希望の方は盛岡市下台館向町23-23 猪苗代正憲氏に代価を送られるとよい。(里見信生)

○ 大原準之助著 **愛知県国有林の植物誌** A 5版, 179頁, 名古屋営林局発行 非売品

著者は愛知県内に分布する、シダ植物以上の植物の種類数を197科2,322種と数えている。

それで、著者は日本の中央に位置する愛知県は全国的にみて「日本の平均的な自生植物をほとんど網羅しているといっても過言でない。すなわち、愛知県のフロラを解明するこ

とによって我が国の植物の概要を知ることができるのである」と述べている。

その内容は2~21頁は総論で、愛知県の自然環境、植生、植物相、植物地理を述べ、22~153頁は各論で、各国有林の植生と植物相を記述している。

この著書の中心となる植物目録は119頁にわたっていて、最後に多くの写真と愛知県の植生図が入れられている。(里見信生)

○ 北村四郎・村田 源著 **原色日本植物図鑑** 木本編 (I) 保育社刊 ¥2,800円
14年前「原色日本植物図鑑」草本編 (I) の合弁花類が出版されて以来、著者等の精力的な努力によって、(II) 離弁花類、(III) 単子葉類を完成された。

この巻はそれらの姉妹編ともいべきもので、北海道から九州に分布する合弁花類のスイカズラ科からツツジ科などの美しい花を含んだ全部と、離弁花類のミズキ科からマメ科までを対象に447種の樹木を原色図で示し、類似種を含めて全種を詳細に解説している。なお、木本編はもう1冊(II)で完成の予定とのことで、既に幻の樹木図鑑とならないよう、図も解説もいくつか出来て、着々と進行の由である。

美しい図版をみていると、木本編(II)が一日も早く完成されることをねがっている。(里見信生)

○ 前川又夫著 **原色日本のラン** 誠文堂 新光社刊 ¥27,000円
いつであったか、今では思い出すことが出来ないが、かなり以前のことである。
前川先生から“日本の野生ランを実物大に、しかも着色で生きているままの姿に描いた図譜を出版する”とうかがったことがある。

それ以来、御目にかかる度に“何時出のですか”“まだ出ないのですか”いくたびか御たづねした。

それほど、私には首を長くして待って来た著書であった。

巻頭の著者のことによると、手がけてから15年とのことであるから、私が述べるまでもなく大変な御苦心であったことが想像され、その出来ばえは申すまでもなく立派である。一書を手にすると表紙は羊皮革、手ざわりよく豪華本という感がする。内容は、はじめにラン科の分類、日本の野生ランの位置・属を中心とした日本のラン科の項目のもとに70頁余りの総説がある。

それに続いて75頁よりは図版と解説で、必ず対面になっているから、みやすく都合がよい。

図は187図、大田洋愛氏の筆による。実物大(大きいものは実物の半)いづれも生品よりうつした着色図。巻尾に30頁にわたる英文の解説がつけられている。(里見信生)